福井県立鯖江高等学校　地域との協働による高等学校教育改革推進事業概要

鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

これまでの実践例

○福井国体時に市民向けに行った鯖江市デジタルパンフレットの成果発表

○鯖江市主催の地域活性化プランコンテストに東大生等とチームで参加し、最優秀賞を受賞

【成果】

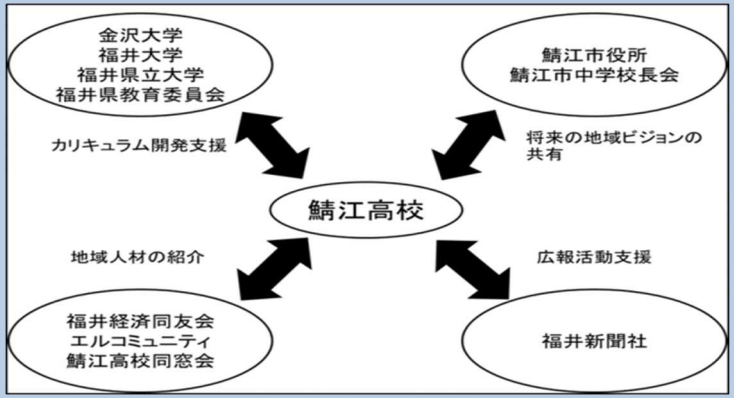
○総合的な学習の時間への探究学習の導入
○地域の学校観の変化

【課題】

○地域との連携の組織化
○地域課題解決型学習の本格導入と実践
○全校体制のカリキュラム開発と授業改善

地域との協働を柱に、普通科専門コース・探究科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発

コンソーシアムの体制



関係機関の役割

【大学等】カリキュラム開発と評価に関する指導・助言

【自治体等】将来の鯖江市についてのビジョンの提供と共有

【地域団体等】探究活動に資する地域人材の紹介・調整

【メディア等】市民への情報発信及び、本事業成果の発信に関する研究開発の支援

鯖江高校の取組

新たな学校づくり

組織
○地域協働実行委員会
○地域協働事務局
○授業改善推進委員会

探究活動の位置づけ

学校再編後（Ｒ２）
・探究科（仮称）
「学校設定科目」
・普通科各専門コース
「総合的な探究の時間」
「専門各科目」

市民との交流
○校内ギャラリーなどの開放
○地域市民に向けた成果発表会

カリキュラム開発と授業改善

地域市民の育成

課題解決型学習の本格実施
○課題設定能力
○情報収集と考察
○課題解決
○成果の発信

探究活動の充実 ⇔ **学力の向上**

主体的・対話的で深い学び
○知識・理解
○思考力・判断力・表現力
○主体性・多様性・協働性

地域資源の活用

地域資源の具体例
○眼鏡・漆器などの伝統産業
○先進技術を有する地元企業
○固有の歴史・文化遺産
○地域スポーツ・伝統野菜な

地域への愛着とチャレンジ精神をもった、地域の未来を育てる市民を育成

成果目標

①県内就職希望の生徒85%以上

①県内就職率100%

ふりがな	ふくいけんきょういくいいんかい	ふりがな	ふくいけんりつさばえこうとうがっこう
管理機関名	福井県教育委員会	学校名	福井県立鯖江高等学校

２０１９年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業　実施体制の概要

１　管理機関・学校の概要

（１）管理機関名、代表者名

管理機関名：福井県教育委員会
代 表 者 名：豊北欽一

（２）学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：福井県立鯖江高等学校　　**学科**：■普通科　□専門学科　□総合学科
校長名：福嶋洋之

２　取組内容

鯖江高校は平成 29 年度より、鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、総合的な学習の時間だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を行ってきた。また、地域創生プランコンテストなどのイベントや市民に向けた「鯖江市デジタルパンフレット」のプレゼンテーションなど、本校の実践を広く発信することに努めてきた。このような実績を踏まえ、①地域への愛着と貢献意識をもち、地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化を継承し、新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有し、あらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け、自ら考え行動する市民、という４つの育成すべき地域人材像を設定した。このような地域人材を育成するため、鯖江市役所や地域のＮＰＯ法人、企業組合、鯖江高校同窓会など、地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきをより一層強化し、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」を構築するため、総合的な探究の時間だけでなく、地域資源を活用した全教科・科目でのカリキュラム開発・授業実践を行い、全国へ発信する。

３　管理・運営方法

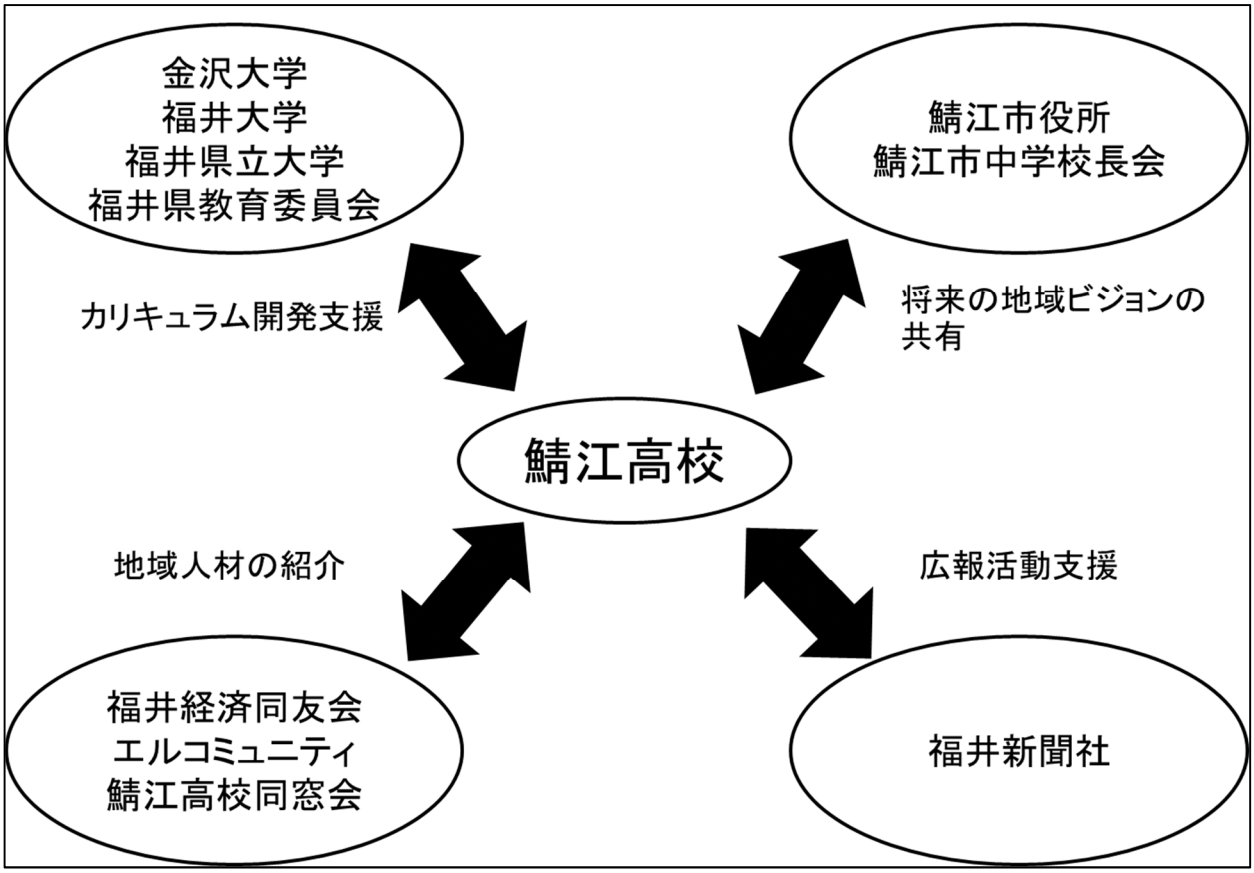
（１）高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
鯖江市役所	牧野百男
福井経済同友会	江守康昌・林正博
金沢大学地域創造学類	佐川哲也
福井大学教職大学院	松木健一
福井県立大学	進士五十八
鯖江市中学校長会	丸山繁喜
福井新聞社	吉田真士
ＮＰＯ法人エルコミュニティ	竹部美樹
鯖江高校同窓会	久保田治裕
福井県教育委員会	豊北欽一

（２）将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

本研究開発への指導・助言を行う運営委員会、実践校である鯖江高校の取組みを支援する「鯖江高校サポーターズ」を設置し、その中に鯖江市役所や地元企業のメンバーを配置する。これにより、将来の地域ビジョンや地域が求める人材像を実践校と共有する機会を設定する。

（３）コンソーシアムにおける研究開発体制



（４）カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローカル型）の指定及び配置計画

カリキュラム開発等専門家には、福井大学教職大学院准教授木村優氏に就任していただく。総合的な探究の時間の計画・実施だけでなく、本研究開発の成果が各教科・科目の授業改善につながるよう、評価規準・方法の作成も含め指導・助言を行っていただく。さらに、教員向けの研修会も実施し全校体制でのカリキュラム開発を支援していただく。

（５）地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員には、ＮＰＯ法人エルコミュニティ代表竹部美樹氏に就任していただく。竹部氏には、地域支援事務局との連携により総合的な探究の時間や各教科・科目の授業内容に対する指導・助言、および本研究開発において各地域団体の支援を受ける際の調整・コーディネートなどを行っていただく。

（６）運営指導委員会の体制

本研究開発の成果を検証・評価するため、下記のメンバーを構成員とする運営指導委員会を設置する。

No.	氏名（敬称略）	所属	選考の観点
1	佐川哲也	金沢大学地域創造学類長	地域研究の専門家からの外部評価
2	田中謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長	地元経済界から外部評価
3	宮本昌彦	鯖江市産業環境部長	地元行政からの外部評価
4	丸山繁喜	鯖江市中学校長会長	地元中学校からの外部評価
5	齋藤多久馬	福井県社会福祉協議会副会長	地元関係団体からの外部評価

年間２回開催する運営指導委員会には、本研究活動について外部評価していただき、今後の運営の指導・助言を受ける。

（７）研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

実践校から、コンソーシアムに対し年間２回の研究成果の報告を行う。また、実践校と協議をしたうえで、卒業生や市民に対するアンケートを実施し、本研究開発の成果を検証する。

（８）管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

管理機関およびコンソーシアムは、地域人材の派遣、施設の提供、地域活性化事業の情報提供など実践校が必要とする支援を行う。年間２回の報告会はもとより、年間を通じて実践校との連携を深め、本研究開発を全面的に支援する。

（９）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

実践校である鯖江高校は、令和２年度に市内の高等学校を統合し、市内唯一の高等学校となる。この再編統合を視野に、これまで鯖江市と協議を重ね、行政との連携を模索してきた。また、コンソーシアムの一つのＮＰＯ法人エルコミュニティは、地元企業だけでなく様々な企業とのネットワークをすでに有しており、この機関との連携を深めることにより、本事業終了後も継続的に取組みを実施することが可能である。

２０１９年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

<table>
<tr><td rowspan="2">指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="4">ふくいけんりつさばえこうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">福井県</td></tr>
<tr><td>①学校名</td><td colspan="4">福井県立鯖江高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2019～2021</td><td colspan="2">③対象学科名</td><td colspan="3">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="3">1 年生 4 学級、2，3 年生 5 学級、生徒総数 522 名の県内中規模校。来年度の再編統合により、1 学年 7 学級となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">普通科</td><td>150</td><td>190</td><td>182</td><td></td><td>522</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">⑥研究開発構想名</td><td colspan="6">鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑦研究開発の概要</td><td colspan="6">本校では平成 29 年度より、鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、総合的な学習の時間だけでなく全教科・科目において地域教材を活用した授業開発を行ってきた。このような成果があがる一方、市役所・ＮＰＯ・同窓会などの市民との連携強化、全校体制でのカリキュラム開発、実践の市民への普及、などの課題も出てきた。このような課題を解決するため、鯖江市役所や地域のＮＰＯ法人、企業組合、鯖江高校同窓会など、地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきを強め、鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」を構築するため、総合的な探究の時間だけでなく、地域教材を活用した全教科・科目でのカリキュラム開発・授業実践を行い、全国へ発信する。</td></tr>
</table>

⑧研究開発の内容等

⑧-1 全体

(1) 目的・目標

現在、日本の地方自治体の多くが人口減少や少子高齢化、過疎化などの課題を解決するため、多くの関係団体と連携しながら地域活性化に関わる取組みを行っている。高校教育の現場にもその成果やノウハウを積極的に取り入れ、地域との協働での学びを促進することで、高校生の地域社会に積極的に関与する姿勢を培い、持続可能な地域社会を形成する市民を育成することが求められている。本校では、その協働の成果の発信・普及に努めることで、地域社会の中核としての役割を果たしたい。そのため、以下の３つの目的を設定した。①市民との協働による学びを促進し、持続可能な地域社会を形成する市民を育成する。②市民との協働による学びにより、生徒の探究力を育成する。③市民との協働による学びの成果を広く発信し、地域の中核としての学校を目指す。

(2) 現状の分析と研究開発の仮説

鯖江市の行政や民間団体などはすでに地方活性化に向けた取組みを加速させており、全国的にも高い評価を得ている。本校の生徒もこのような取組みに参加しているだけでなく、平成 29 年度から鯖江市役所と協働し「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、地域との連携をすでに始めている。これらをさらに拡大・充実させ、鯖江型高校教育「オールＳＡＢＡＥ」を構築するため、以下のような仮説を設定した。

仮説１　生徒と教員だけでなく、市民との協働を促すことが探究力の育成に大きく貢献する。

仮説２　様々な地域団体との結びつきを強化することで、総合的な探究の時間だけでなく、全教科・科目で地域資源を活用したカリキュラム開発が可能となり、授業改善につながる。

仮説３　本校における学びの成果を広く発信することで、本校の教育活動の充実だけでなく、市民のまちづくりへの参加を促進することができる。

これら３つの仮説を検証するため、以下の３つの研究開発を設定した。

研究開発Ⅰ：市民と生徒や教員が交流するプラットフォームとしての学校づくり
研究開発Ⅱ：教育活動全体で地域資源を活用するカリキュラム開発
研究開発Ⅲ：市民に高校教育の成果を発信するための効果的な手法の開発

本校は、令和２年度に高校再編を控えており、探究科（仮称）を新設、普通科の中にス

ポーツ・福祉コース（仮称）、ＩＴ・デザインコース（仮称）を設置する予定である。この高校再編により、本校は鯖江市で唯一の高校となる。そのため、上記の３つの研究開発を推進し、今まで以上に地域に根差した学校づくりを目指し、市民との連携を強化することで、本校の独自性をアピールするとともに、本校の教育の魅力を高めていきたい。

⑧-2 具体的内容

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

総合的な探究の時間については、下記の計画で実施する。

総合的な探究の時間	１年次	前半：①ブレインストーミング、KJ 法、マッピングなどの思考法に関する技法の習得 ②プレゼンテーション能力の育成 ③新聞の読み比べ、情報教育などを通じたリテラシー教育 ④論理的思考力の育成 これら①～④に関わる学習課題を用意し、探究力の基礎となるスキルを修得する。 後半：地域資源を活かしたミニ課題研究の実施 ※その他長期休業を利用して地域研究合宿を実施する。
	２年・３年次	地域と協働しながらグループ毎に課題解決型探究活動または地域研究を実施、「まとめ」を作成中間発表会・最終発表会を実施。

各教科・科目においても、地域資源を活かした授業を展開する。下記はその例である。

国語	・近松門左衛門の研究 ・さばえ近松文学賞の受賞作品の活用	英語	・鯖江の観光施設の英語看板作成
地歴公民	・王山古墳群、鯖江藩、三六連隊など、鯖江に関連する歴史教材の活用	保健体育	・体操のまち鯖江に関する研究
数学	・鯖江の神社にある算額の研究	芸術	・人形浄瑠璃の音楽体験 ・本校にある芸術作品の鑑賞
理科	・漆器やめがねなどの地元産業に関連する化学題材の活用	家庭科	・鯖江の保育園と協働授業 ・鯖江に住む外国人を招いての調理実習

さらに、下記のような教科・科目横断的な内容を扱った授業も展開していく。

授業内容	横断する教科・科目
算額の研究と外国人観光客に向けた資料づくり	古典・数学・日本史・英語
鯖江藩の藩主が食べていたレシピ再現	古典・日本史・家庭科
鯖江におけるジャポニスムと CoolJAPAN	世界史・日本史・美術・英語
体操の技を力学的に解析	数学・物理・保健体育

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

本研究開発の成果を各教科・科目に広く普及させるため、授業改善推進委員会を設置し、月に１回以上開催する。そこでは、総合的な探究の時間の課題はもちろん、各教科・科目の授業の改善や地域教材の活かし方などについても議論を行う。この委員会での議論を学年会や教科会に普及させることで、全校体制で研究開発を行う。また、総合的な探究に時間については、主担当となる各クラスの副担任のミー

		ティングを毎週行い、事務局から指導案を提示し、それについての議論を行う。 **(3) 必要となる教育課程の特例等** 初年度は特になし。ただし、２年目以降は新設される探究科（仮称）での学校設定科目「探究（仮称）」において、「総合的な探究の時間」を代替する。
⑨その他特記事項		